

那珂川町図書館

オススメの1冊

『レオ・レオーニ希望の絵本をつくる人』

松岡 希代子／著 美術出版 【726.6 マツ】

『あおくんときいろちゃん』（至光社）、『スイミー』（好学社）、『フレデリック』（好学社）など、一度は彼のイラストを目にしたことがある人は多いのではないだろうか。

『レオ・レオーニ希望の絵本をつくる人』はレオ・レオーニの人柄や人生、作品について著者が調べたことや見聞きしたことが書かれている。

美術の学校には行かず絵の技術は画家であった叔父に習い、大学では経営学を学んだ。職を転々としてグラフィックデザイナーとして広告会社に勤め、数々の絵本を出版。当時あまりなかった“抽象形だけで構成されたエポックメイキングな絵本”として知られていて、彼の本が初めて出版されたときは話題になったという。

彼の初めての絵本『あおくんときいろちゃん』は家族で電車の移動中にできた。幼い孫たちを車内で静かにさせるために、その時に手元にあった雑誌を丸く破り、即興でお話を作った。孫たちだけでなく周りの乗客も楽しんで聞いていた。その後彼の出版社勤めの友人を家に招いたときに、電車の中の出来事を話すと、その友人の強い勧めで出版に至った。

彼はパーキンソン病を患っていて手足が思うように使えず、手足が痙攣していた。そのことに対して「ギターのビブラートが上手くなった」と周りの人を沸かし、ネガティブなことも笑いに変えられるようなユーモアを持っていたという。

私の小学2年生の時の国語の教科書に『スイミー』が載っていて、毎日音読をする宿題が出ていた。『スイミー』は海に住む小さな黒い魚が主人公の絵本である。レオ・レオーニの作品の中でも特に好きな作品だ。今はもう覚えていないが、何度も繰り返し声に出して読んだため、教科書を見なくても次の文章が浮かぶくらいになった。

この本を読んでレオ・レオーニのことを知った後に彼の残した作品を読み返すと、以前よりも深く彼の作品を感じられた気がした。

那珂川町図書館（いちご大福）